

平成21年度 第2回芦屋市市民参画協働推進会議 会議要旨

日 時	平成21年8月25日(火) 午後2時 ~ 午後4時
場 所	北館2階第4会議室
参 加 者	委 員 今川 晃 ・ 菅沼 久美子 ・ 瀬尾 多嘉子 柳瀬 英次郎 ・ 山下 正夫 ・ 山村 孝司  欠 席 弘本 由香里 ・ 焦 従 勉  事務局 竹内 恵一 市民生活部長 ・ 福島 貴美 市民参画課長 中川 文子 市民参画課長補佐 海士 美雪 あしや市民活動センター事務局長
会 議 の 公 表	公 開 非公開 部分公開 <非公開・部分公開とした場合の理由>
傍 聴 者	0 人

1. 報告

(1) 市民参画の手続きの実施予定及び実施状況の公表について

福島市民参画課長から資料に沿って説明(資料参照)。

(今川会長) 質問, 意見はありませんか?

第2次芦屋市生涯学習推進基本構想(案)の数字が入っていないが。

(福島課長) 0です。抜けていました。申し訳ありませんでした。

(今川会長) 市民提案制度は, 審査結果によって助成金を払いますとか, 行政とともに協力事業を実施しますとか, 期間を設けて募集をかけると多分出てくるのではないかと思います。

(福島課長) 財政的な担保とか提案に対してどういう形で実施するとか, 今は表していないので先が見えないから提案が無いのでしょうか。

(今川会長) 助成金が5万10万でも申請が出てくると想像はできるが, 芦屋市の財政状況如何ですね。

(瀬尾委員) 障害者福祉関係の会合に出ると, ここには数字が挙がってこないだけで, 会議では家族が声・意見をだしている。パブリックコメントは広く浅く市民に意見を求めている。

数字が低いから市民が無関心ということではない。具体的に言いたいことがあれば出てくる。一般論とは違って来る。

(今川会長) 公聴会等をしたというのは, どこかに数字で出ているのですか?

市長が適当と認める方法という項目ですね。

(福島課長) 資料5ページの市民説明会の実施やタウンミーティングの開催などが該当します。

パブリックコメントを求めるだけでなく, 市から地域に出て行って関係者から意見を聞き, 市でまとめるという方法もある。

(竹内部長) 個別の団体と市が話し合った場合などは数字に表れない。

(今川会長) それらも何らかの方法で数字に表れるようにしてはどうか。生涯学習の場合は市民説明会を開いて市民の意見を聞いているが, 他課は直接市民の意見を聴く機会を持っていないようにこの表を見ると上がっていない。福祉関係の会議で意見を聞く機会を持っているようならば, 数字

に表す方法を検討する必要がある。

(竹内部長) 福祉センターの運営や中をどうしようと言うことでも、それぞれの団体の方から意見を聞いているが、その数字は表に表れてこない。

(菅沼委員) 公聴会を開いた場合、そこでの意見は数字に表れないか。

(福島課長) あしや市民活動センターの場合は、公聴会の会議録や意見はホームページに掲載した。

(菅沼委員) 意見交換会で意見を交わしている経緯がわかると、参加者に理解を深めてもらえる。会議録や意見の公表には事前の了解を得ないで、個人名の明記はだめだが、市民の関心があるやり取りは経緯を公開することで理解は深まると思う。

(竹内部長) 審議会の会議録は発言者名を入れて公表している。

(福島課長) 市のホームページの公表の仕方は担当課によってまちまち。ホームページ内容が充実した課は、数字も中身も十分に掲載されている。

(今川会長) 今後どうしたらよいかは、後ほど3の協議でしていただきたい。

## (2) 芦屋市で市民と市が連携を図りながら取り組んでいる参画協働事業について

福島市民参画課長から資料に沿って説明(資料参照)

(今川会長) 何かご意見ご質問は？

(山村委員) 公園の管理費が20年度と21年度と2,490,000円と同額だが、同一内容の事業を毎年同じことをやっているのですか？

(福島課長) はい。

(山下委員) 前田町自治会も委託を受けて公園の管理をしているが、昨夏はシルバー人材センターに花壇の水やりをお願いしたが、水にも撒き方があって、シルバーでは時間の制限があり表面上しか撒けない。今年は自分たちの公園だから、地域の有志をお願いした。自分たちですると公園にも愛着がわくし、木や草によって性質も違うので、公園課にそのあたりのノウハウを教えてほしいとお願いましたが、なかなか教えてもらえない。

(山村委員) 金額が同じということは発展性が無いように思う。

(福島課長) 参画協働事業の実施状況の報告方法を検討する。報告スペースのあり方も考える。

## (3) ふるさと雇用再生特別基金事業について

福島市民参画課長から資料に沿って説明(資料参照)

NPOについてあしや海士市民活動センター事務局長から資料に沿って説明。

(今川会長) アンケート調査には何人ぐらい雇用する予定ですか？

(福島課長) 新規採用1名をハローワークに求人募集し、ホームページの作成や調査分析などの指導の専門性が必要な人材は、受託団体の現スタッフを1名充当し、新規採用者の指導を行なう。

(山村委員) 給与は市が出すのか？

(竹内部長) 国の経済対策事業のため、国から県に下りて、市への補助金となっている。

(海士事務局長) 新規採用者にはこの仕事を通して専門性を身につけてもらって、他のNPOなどに就職していけるようにしたいと考えている。

(山村委員) 9月から実施するのですか？

(福島課長) すでに業者選定委員会が終わりで、契約する段階です。

## 2 協議

### (1) 市民参画の手続きについて

#### ア 審議会等の活用（市民委員の参画）

- （今川会長）では、ここから協議に入ります。市として意見のほしいポイントは？
- （福島課長）審議会委員に多くの年代，いろんな背景を持った人に応募してほしいが，開催の時間帯が限られているのだが，市民参画の観点から審議会の活用を進めていくためにもどうしたらいいかご意見をいただきたい。
- （山村委員）いろんな審議会に出る機会があるが，60代70代が多くどこも時間的にフリーの人が多い。会社員や事業者（商売人）はほとんどいない。会議開催時間帯が平日の昼間というのが問題。日曜日など休日の開催を考えてはどうか。
- （菅沼委員）土・日曜日や平日なら午後7時からだと関心のある人は出られるかも。女性はウィークデーにできないことを土・日曜日にしたいと思う人が少なくないので無理。
- （今川会長）いろいろな生活パターンがあるので，いろいろと試しにやってみたら。
- （山下委員）若い人はコンピューターを自由に扱えるから，会議欠席の場合は，意見をメールで提出したり，若い人が参加できる環境と時間帯を考えてみてはどうか？
- （瀬尾委員）男性で50代以上の人は，地域でのつながりが無く会社を辞めたら近所に知り合いが少ないが，40代前の方は，子育て参加は当然と考える世代のため地域にも知り合いが多く，地域に関心を持っているので，その層への誘いかけによっては効果があるのでは。
- （今川会長）大学生の場合は大学に依頼すると半分強制的に学生を送ってくれる。私のゼミ生も京都市上京区の基本構想策定委員会に送り込みましたし，数年前には枚方市の歴史懇話会の委員にも学生を送りこんだ。
- （菅沼委員）大学生でも地域活動に関心がある人が増えている。

#### イ ワークショップの開催

- （今川会長）ワークショップなどは複数のコーディネーターが必要。
- （瀬尾委員）高年福祉課が主催して，あしや喜楽苑で開催されるミニ地域ケア会議の延長線上のものとして理解しているが，芦屋市役所でワークショップを行なった。浜風・潮見・南芦屋浜の3つのグループに分け「地域でいつまでも安心して暮らすにはどうすればいいか」というテーマで3回実施したが，これも数字上には上がっていない。
- （山村委員）ワークショップって何？って聞かれるが，「話し合い」だと伝えるとたくさん来られる。固苦しく書かれるとしり込みしてしまう。ワークショップというと来ないが，日頃考えていることを話してくださいというとなりの人数は集まると思う。結論が出なくてもいい。
- （福島課長）意見交換会と言う名のワークショップを行ったが，ファシリテーター（まとめ役）が必要であると考え，あしや市民活動センターの専門相談員の海士さんをお願いした。行政の中に専門性を問うより，専門家の方が良い。
- （今川会長）市民活動センターと協働関係でワークショップを開けばいい。
- （柳瀬委員）市民が市民活動センターに来て，いろいろ話す中で，行政にも参加してもらった必要性があれば参加してもらって話し合えばいい。市民活動センターに市民が集まってくることが大事。芦屋市では，市民フェスティバル的なイベントはありますか？
- アメリカのサンタモニカは，規模など芦屋市とよく似ているが，年に一回，行政が市民フェステ

ィバルを実施し、ここで行政の宣伝をしている。会場の広場では中央にボランティアセンターを置いて、その周りを行政の各セクション（福祉や教育委員会、消防など）が自分たちの業務内容を紹介するブースを造り、メインステージでは様々なイベントを行っている。行政の業務を市民にアピールする場であり、このフェスティバルに参加することで市民は行政を身近に感じるし、子どもも参加しているので、子どものときから行政を身近に感じられる。行政と市民のコラボレーションがうまくいくように、新たな発想で行政が考える必要がある。

（福島課長）昨年、NPO活動の発表とNPOの交流を図る目的で「あしや市民フェスタ」を開催した。

（山下委員）最近は連休が多い。地元で何かイベントが行なわれると、他所へ出かけていかななくても良い。

## ウ パブリックコメントの活用

（今川会長）パブリックコメントが出る環境づくりが大事で、件数は0件でも1件でも気にすることは無い。政策を築く過程でどれだけ意見を吸い上げているか、それらの意見を政策に反映させ、また、取り上げない場合はその理由を説明するなど透明性を高め、意見に対するフォローが大事。

（菅沼委員）意見交換会などで参加した人が自分の意見を言って、そこで消化できれば、あらためてパブリックコメントの手法をとらなくても、もういいと思っている人がいるから数字に表れないのではないかと。数字が少ないというだけで市民の関心が少ないとは限らない。

（福島課長）以前自治会関係者にパブリックコメントをと言ったら、文章にするのが大変だから出しにくいと言われた。

（菅沼委員）パブリックコメントに対する行政の答えも、砕けた感じで答えてくれるといいのですが。

（福島課長）言葉や文章にすると後々残るので行政も推敲をするとどうしても固くなる。

（菅沼委員）回答はユーモアを交えて柔らかく書いてもらおうとホッとする。大学生協の白石さんという方が学生からのとてつもない要求に対してユーモアなコメントを出したのを本にまとめて出版し、ベストセラーになり、第3者がみても面白い。もう少し柔らかくやり取りできれば、出した方もホッとする。

（瀬尾委員）市民もいろいろだから、行政も安全確保を思いながらでないとうかつには答えられないと思う体質があるのでは。市がいろいろ提案される座ったことがあった。27年ほどには、95%市が決めて、「一応市民の皆さんに説明しましたよ、特に大きな反対はありませんでした」と免罪符的に市民を使っているのではないかと思えることが皆無ではなかった。地震がターニングポイントで、まともに市民の声を聞いてくれる、95%は決まっていないという自覚を持てるようになった。

（竹内部長）街づくりには市民からいろいろ意見を聞いて進めないに進まないの。

（瀬尾委員）大阪府下で街づくりに取り組もうとしている方が、震災後の芦屋の街を見てまわったことがあった。その感想が、「芦屋の人はさすがやな。後世、自分たちの先祖は大きな苦難をこのようにいかしてくれたという街づくりができていますね」と言ってくれ、嬉しかった。自分の私有財産を提供して道を広げ、個性的な家を建てたいと思っても街全体の調和を考えて引っ込めた市民が多かったと思う。

## エ 市長が適当と認める方法（アンケート調査やセミナー等）

（福島課長）説明会やタウンミーティングなどでは市民の方と直接対話ができる利点があり、アンケート調査では市民の傾向がわかるし、それ以外の有効な方法についてご意見をいただきたい。

(今川会長)ワークショップの手法をどう展開するか。市民の方が小グループを作って街の中を探検してみるとか、小・中学生に公園の絵を描いてもらうとか。「市長が適当と認める方法」という項目を設けたことで、各課の創意工夫が出せるという点でよかったかなと思う。

## (2) 市民参画協働事業について

(福島課長)業務委託を結ぶ参画協働事業もあるし、後援名義使用許可によるバックアップもある。市がNPOと業務委託するのも参画協働だが、民間業者と入札による業務委託は参画協働ではないと思う。市と民のバランスの問題。芦屋市の場合、行政主体で市民参画を行なってきた。これからも行政主体でよいか？民の方が割合を多く持って参画協働を進めていったほうがいいのか協議してほしい。

(今川会長)行政の気付かないこともあるので、民も主体的に領域を拡大していく必要はあり、市民提案制度と協働事業を結び付けないといけないのではないかな。自治会、NPO団体、ボランティア団体であっても行政とこういう面で協働したいという提案を出してもらってその中できちっと予算を保障する仕組みに変えていかないと。行政の担当課としては予算の編成の仕組みが変わってくるので大変だろうが、ともに行うというそのための提案を受けるといふのを示す必要があるのではないかな。滋賀県が県民協働提案制度を実施。一次では100件近い提案があった。観光行政をNPOに任せ、県は背後支援に回るという提案で、そのために必要な予算をNPOが示し、審査会で通ると、県は何らかの処置をしないといけなくなる。今まで担当していた課は予算減で苦しいが、NPOがやると効果自体は上がる可能性はあるし、行政経費の削減にもなる。芦屋でも一定の額を出したら、いくつかのグループから提案が出てくる気がする。市の面積が比較的小さいから、最初は実験的だが、地縁団体やNPOと行政の関係がより良い方向に改善されていく気がします。

(菅沼委員)18ページの参画協働事業計画を市民活動団体が見て、期日とか設けて公募すると、自分たちの団体が対等にできるかどうか検討するところもあるかもしれない。

ただこの場合は、めばしい団体があるんですね。

(竹内部長)指定管理などでは、事業に対して競合する団体があって選考している。

(今川委員)それは行政が設定したものですな。

市民からの新しい提案をどう協働するか。もう一方の回路をどうやって作るか。

(竹内部長)市の内部では不安がある。市民提案型だと今回はこれだけやった。次はとなるとそこまでできるかどうかわからない。費用がどうなるかということもあって、なかなか市民提案型に進められない。

(今川委員)他に何かありませんか？本日はこれで終了します。